

おれんじニュース

No290

2014年5月号



4月5日、オレンジハイキングクラブの定期総会が開かれ、本年度の新役員が揃いました。

今月号の記事

第35回定期総会・新しい仲間・黒河内連山・とけん山、橘神社・
鬼の鼻山、聖岳&ロープワーク・疑似晴天

運営委員会の日時が4月から変更 火曜日午後13:30~です。

★集会・委員会のお知らせ★ 山行の一步は集会参加から				
	2014年5月	2014年6月	時 間	場 所
運営委員会	6日(火)	10日(火)	13:30~15:00	西諫早公民館
全体集会	21日(水)	25日(水)	19:00~21:30	西諫早公民館

山口県の山
黒河内連山に行
きました 3/22



黒河内山に到着



魚切山到着



おくれずにゆっくり班も黒河内山に到着



黒河内山から眺める火の山連山

さくらさくらさくら



3/27(木)
上山の山桜



3/28(金)
橘神社のさくら



2014/5 月の山行



部	技術研修部	山行部	ひまわり山行部
月・日	5/3(土)~5/4(日)	5/17(土)~5/18(日)	5/23(金)
山名(行事)	蒜山高原	祖母山系 大障子岩	眉山(819m)
地 図	蒜山	見立	島原
集 合 場 所	諫早駅裏 6:00 西諫早駅 6:10	西諫早駅 6:20 諫早駅裏 6:30	西諫早駅 7:30
難 易 度	初級&中級	中級	初級
帰着時間	5/4 10:30	5/18 20:00	17:30
歩行時間	3h、6h	3h、6h	2.5h
交通手段	マイクロバス	マイカーor ジャンボタ クシー	マイカー
宿泊施設	蒜山高原津黒荘	学校跡地検討中	日帰り
温 泉	有り	有り	有り
参加費	18,000 円	13,000 円	1,000 円
申込期限	定員になり次第	定員になり次第	定員になり次第
集 約	佐原	高森	林
備 考	カタクリの花の美しい山を歩きます。	アケボノツツジの美しい頃でしょう。	七面山に登ります。
感想文提出	5/13	5/27	6/3

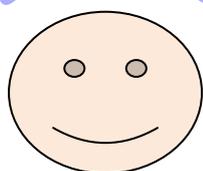
技術研修部より

セルフレスキュー 4月26日(土) 西諫早駅9:30
5月31日(土) 西諫早駅9:30

*セルフレスキューは登山で事故を起こさない為の訓練です。
また、事故に対処する技術を身に付けます。
レスキューの心得があれば、事故予知能力が身に着き
事故を未然に防ぐことができます。



めたらしいなか味



こんにちは。船津です。山歩きをしたくて入会しましたが、今のところ膝を痛めてしまいました。プールに行ったりしてますが、これが治ってから山には参加させていただきます。よろしくおねがいします。

2014/6月の山行



	自然保護部	山行部	技術研修部	ひまわり山行部
月・日	6/1(日)	6/8(日)	6/15(日)	6/20(金)
山名(行事)	金比羅山(247m)	英彦山系 県境尾根周回ルート	多良岳・帆柱岳	九千部岳(1062m)
地 図	諫早南部	英彦山	多良岳	雲仙・島原・愛野
集合場所	西諫早駅 9:00	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30	西諫早駅 8:00	西諫早駅 9:00
難易度	初級	初級&中級	初級&中級	初級
帰着時間	16:00	19:00	17:00	16:00
歩行時間	2.5h	3.5or4.5h	3.5h	2.5h
交通手段	マイカー	マイクロバス	マイカー	マイカー
宿泊施設	日帰り	日帰り	日帰り	日帰り
温泉	無し	しゃくなげの湯	有り	有り
参加費	1000円	5,000円	1,000円	1000円
申込期限	随時	定員になり次第	随時	随時
集約	中里	高森	佐原	金丸
備考	奥の院まで綺麗にして、クリーンハイクにつとめましょう。	英彦山のシャクナゲを愛でに行きます。	多良岳は知る人ぞ知るシャクナゲの穴場です。花のトンネルに出会うかもです。	きっと、ヤマボウシが見られる頃でしょう。
感想文提出	6/10	6/18	6/25	6/30

編集委員活動開始

4月14日(月) 御館山で午前9時から約1時間初めての話し合いをしました。

メンバー：鎗水、山下ち、福岡、林か、山口、山下ふ、中野

(山口さんは農業、園芸、短歌などに詳しいので記事にいろいろな変化をもたせることができるので特にお願いしました。)



- 話し合い事項
- 1.各会員が所属している部の感想文、写真などをあつめる。
 - 2.山下(ち)が従来通り集まった感想文、写真などの編集をする。
 - 3.山下(ふ)、中野が校正をする。
 - 4.総会で出た文中の名前の表記については感想文を書く人に任せる。
(名前をだしても、アルファベットの頭文字でもよい)
 - 5.参加者の欄の部外者については従来は「外」としていたが、「一般」とする。
 - 6.近い将来、このメンバーが編集を受持てるようにパソコン操作の研鑽を重ねる。
 - 7.編集会議はとくに日にちを設定せず、メールでやりとりをしながら、必要が生じたときに開く。(なるべく、御館山の歩きのと後に開く) (文責 中野)

第 35 回定期総会

4/5 第 35 回の定期総会が議長(山下ち)、副議長(松岡)、書記(鎗水)を選出し開かれました。例年になく白熱した? 審議が行われ、昼食も休憩も短縮してなお時間超過する程でした。近年、会員と山行参加者数は漸増傾向にあり、風向きが変わってきているような気がします。2014 年度の方針では、登山する為に基本に立ち返って学び直す事、また高齢化を配慮した方向転換の必要性を提案されました。即ち、

＊生涯登山………一生山に登り、健康長寿。

＊リーダー育成……特に「ゆっくり班」のリーダー養成。

＊安全登山………初歩的な地図の読解と基本的なロープワークの習得者を増す。

役員もスムーズに決まり、本年度のスタートです。

山行回数 8 位まで毎年表彰していますが、常連以外の人が出てきたことは喜ばしい事です。懇親会も桜の散った公民館でにぎやかに行われました。

来年は豪勢にどこかのホテルでやりたいものですね。SA さんお願いします。

2014 年度役員、各部部長、県連委員

★会長：福岡正廣

★会計：田中静香

★事務局長：兵庫芳隆

★山行部長：中須賀孝正

★技研部長：川原慶紀

★ひまわり山行部長：小山準之介

★自然保護部長：中里利行

★県連理事：鎗水律夫

★新特別基金担当：山口イツ子

☆副会長：富永徳磨、佐原満子

☆会計監査：佐藤伯隆

☆次長：山下ちず子(兼おれんじニュース担当)

☆副部長：高森陽子

☆副部長：松岡正樹

☆副部長：金丸直美

☆副部長：野中勝廣

☆評議員：松岡正樹

女性担当(未定 鎗水あずかり)

(鎗水 記)



総会の主な質疑応答&意見要望

- 1、決算報告書の組織強化部とは何か
※組織強化費の間違いです。予算書では組織強化費としている。
- 2、「おれんじニュース」「ホームページ」編集者の苦労は大きい。手当を付けてはどうか。
※山の会や同好会等はボランティアが基本であり手当は不要。
- 3、編集者などプリントやコピーのインクが馬鹿にならないと思う。予算計上してはどうか
※インクは各部の部長も会議の都度必要であるが公私の区別がつかない。
- 4、規約の第2条②組織部は末梢されているが別紙各専門部活動内容の組織部との関連はどうなっているのか。
※現在組織部は部員がいないため末梢している。活動は事務局が引き継いでいる。
- 5、規約では運営委員は若干名となっているが運営委員会には全員が参加している。関連付けはどうなっているのか
※以前は規約どおり若干名の運営委員を選出していたが専門部会を運営委員会の前に開催して会議日数を少なくすると同時に多数の意見反映と情報の伝達を速く確実にするため全員参加型にした。
- 6、上部団体（県連、労山）へ納入する金額が会費の半分を占めている。その割には恩恵を受けていないように思う。山の情報などが無い。
※大山など雪山訓練では一流の技術を持った講師を安価で派遣してもらえらる。
- 7、新特別基金に全員加入すれば山行時、一時保険に加入しなくて済む。
- 8、編集委員を各専門部から選出する。
- 9、個人レスキュー用紙(あしび山の会参照)当会も取り入れる。 (文責 山下ち)

2014年3月/4月の山行報告



3月22日(土)

黒河内連山（黒河内山・天狗岩山・魚切山・狐ヶ峰・伽藍山）

- (参加者) 中須賀、國分、高森、工藤、小山、川原、山下(ち)、田中(静)、柳迫、福岡、佐原、田村、林(和)、一般(外山、中村) (15名)
- (行程) 諫早駅裏 6:00—西諫早駅前 6:10—諫早 IC—金立—東背振 IC(國分さん乗車)—直方 SA(外山さん乗車)8:40—小郡 IC—吉野堤登山口 10:10
- (登山行程) 登山口発 10:15—黒河内山頂着 11:10—天狗岩山着 11:33—魚切山着 11:50(昼食)—12:30 発—陶峠—馬頭観音分岐—狐ヶ峰 13:31—伽藍山 13:58—明神ため池着 14:30—山口市内「かんぼの湯 湯田」—小郡 IC—西諫早駅 20:00

(感想) 西諫早駅に6時10分に集合。朝が早いので昨夜は早めに床に着いた。

バスでの山行は久しぶりでやや緊張気味でした。

山口県黒河内連山を目指して出発しました。途中、筑紫野と直方より各1名が合流され15名での山行でした。車中では皆さんのお話に耳を傾けながら、パーキングではトイレ休憩をしたりして目的地へと向かいました。

10時10分、吉野堤登山口へ着きました。天候も快晴で気分も爽快。ストレッチをし、3班に分かれて出発しました。

黒河内山(424.2m)の山頂は見晴らしが良く、気持ち良かったです。次に魚切山(370m)へ登りここで昼食を取ることとなった。気温も高く日差しが少し強く感じられた。ここからはゆっくり班と別れ、陶峠～馬頭観音分岐～狐ヶ峰(354.9m)～伽藍山(291m)へと歩いた。

伽藍山からの下りは急な下りが続き、膝にすごく疲労感を感じた。

明神ため池に着いた時は安堵しました。

定時に下山する事ができ、温泉へ入りに行くことになりました。「やった～」と思いながらバスに乗り込み、湯田温泉へと行った。ゆっくりと温泉に入り、疲れも取れ、足もほぐれ気持ちよかった。

16時に温泉を出発して、車中ではカラオケで盛り上がる人、面白い話をする人で楽しく時間が過ぎていった。

19時30分、西諫早へ着いた。

登山計画に携わった方々のお陰で楽しい山行が出来ました。ありがとうございました。

(柳迫 記)



3月28日(金)

とけん山・橘神社

(参加者) 福岡、小山、佐藤、工藤、林、佐原、川内、金丸、松田、江崎(一般) (10名)

(行程) 諫早駅バスターミナル 8:20ー橘神社着 9:10ー橘神社発 10:25ー木場 10:35ー下領集落 11:20ー小浜温泉(昼食)12:30ーとけん山 14:20ー小浜駅バスターミナル 16:20ー諫早駅 17:10



(感想) 朝起きると、まだ昨日までの足のハリとひざの痛みが少し残っていた。

原因は久しぶりの登山など、3月16日からの行事に全部参加して、知らぬ間に足に負担がかかっていたのか、酒蔵開きの翌日から筋肉痛となった。

憂鬱感をぬぐえないまま出発した。今日、足はだいじょうぶかな?不安の一日の始まりである。

バスの車内では、女子たちのたわいない世間話が妙に快く、うとうとしながら時間が過ぎ、車窓の景色もうつろで目に入らない。

しかし橘神社前に到着した時は、目の前の桜に“すごいー、きれいー”一同感嘆の声をあげ、我先にと下車、薄紅色の満開の桜が出迎えてくれた。

微風で快晴、素晴らしい旅日和であり眠気も一変に吹っ飛んだ。橘神社の参道はまだ人通りも少なく、花見にそなえての露店の準備が行われていた。

おなじみのきんぎょすくい、ヨーヨー、焼きトウモロコシ、クマモンカステラ（なに？）、ポンポン菓子、おもちゃ、刃物 e t c ・昔から変わらぬ祭り模様に郷愁をかられた。・・・

日本人でよかったなーとK氏・・・吾輩もうなずく。

橘神社は日露戦争で軍神・教育者として崇拝された「橘周太中佐」をお祀りしており、神社入口には銅像が鎮座している。

K氏、S氏の話によると、尋常小学校では教科書に橘中佐の歌があり、よく歌った(歌わされた)とのこと。今でも校歌より覚えているとその一部分を披露してもらったが、その記憶力に驚かされた。神社で参拝をすませ、展望台のある釜蓋城址へ向かった。ここは千々和ミゲルの父の城址であり、有馬方の族臣として龍造寺軍と戦い攻め落とされた城だ。

10:25 橘神社前からバスで木場まで約10分、ストレッチを行い町道の道端の花々をながめ、また、遠望山腹の山桜と萌木の艶やかさに春を感じながら歩いた。

山道の入り口は♡・H（われわれは〇〇Hと呼んでいたが・・・

K氏とほほえむ）の脇にある。昨年と同様に小鳥のさえざりと、鳴きはじめのうぐいすの共演が疲れをいやしてくれた。

倒木と石ころの多い道を歩き始めると、先頭の山ガールがうぐいすにも劣らぬ美声で心を和ませてくれた。だが姿は見えないほうが神秘的で・・・（うぐいすも、声だけで十分との言い伝えもあるし??）嘲笑あり山越えの途中で突然の銃声が“パン、パン”2発“じえじえじえ”「やめてーいのししじゃない」「人間だどー」の声にO・H・C少年少女合唱団(俗称)もさらに張り切り、美声をとどろかせた。



何とか樹海を抜け下領集落に入り休憩、目についた道端のミカンに皆手がのび遠慮もなく頂く人、バックに詰める人、手渡しで配る人素晴らしい関係プレーを見た・・・毎年の恒例か！

いつか集落の人々の”倍返し”“ワー・オソロシカー”

15分程の休憩で喉を潤し、腹もすいたのでいざ温泉街へと前記合唱団の第2ステージを堪能しながら国道を急いだ。

12:30 昼食、まずF氏の音頭にて生ビールで乾杯・・・「ウマイ、シアワセ」至福のひと時であった。しばらくするとアルコールが回ったのか、ほんのり赤ら顔の女史も・・・なぜかカワユイ。

その後名物の小浜チャンポンを食しながら談笑、時間を忘れて楽しみ話がはずんだが、まだ最後の目的を達成するべく、未練を残して部屋をあとにした。

本命のとけん(杜鵑と書く)山へいざ出発、みんな少し重くなった腹をかかえ、ほろ酔い気分で登り始めたが、道のりは長く感じた。とけん山の満開の桜が目に入るとその壮観さに歓喜し

歩みにも力が増した。山腹で小宴会の開始、「おっとー、ビールがなーい！」F氏・・・残念！同感！

飲むなら”今でしょ”“仕方なくミカンで乾杯、お菓子などを頬張りながら、桜の下で誰かさんが歌うナツメロ(オカハルオ・ワタナベハルコ他)でお開きにして山を後にし、小浜温泉(昼食をとった吉長)で汗を流し、疲れを癒し 16:20 発のバスで帰路に着いた。

今回の山行も心身ともにリフレッシュできて本当に楽しい一日でした。まだ、参加されたことのない方、ぜひ参加してください。

最後に、同行してくれたスタッフ、及びクラブのメンバーの皆さんに感謝します。

有難うございました。

(工藤 記)

4月16日(水) 自主山行

鬼ノ鼻山(435m) ～ 聖岳(420m) 縦走往復

参加者：川原、鎗水、山下、松岡、高森、国分、中里（佐賀労山との合同山行で16名）

春霞なのか？黄砂なのか？はたまたPM2.5なのか？どんよりとした西諫早駅を8時に出発し、一路集合場所の大町町役場を目指しました。8時50分に到着すると、さすがに佐賀労山の皆さんは到着して待ち構えていらっしゃいました。オレンジのメンバーも旧知の友達に会ったかのように話が弾んでおり、一向に出発の気配が見えません。しかも、僕の苦手とするミニトマトの即売品（500円）まで用意してあったので……僕以外のメンバーは試食をして、美味しいと我先に買っておられましたね。食道楽のY氏などは2袋も求めておられましたね。



9時20分に鬼の鼻山登山口に到着して、登山準備や用足しで時間をくっているメンバーを見て、Y氏が手際よくストレッチをリードしてくださりオレンジの面目躍如というところでした。自己紹介を済ませ、9時40分に登り始めるとすぐにムラサキケマンに出会うとともに、小鳥の声も聞き取れないほどのかしましさも始まり9時52分には鬼の頭をしたユニークな展望台に到着しました。曲がりくねって蛇行している六角川を眺めるでもなく登山者のさえずりは続きます。9時55分に聖岳への縦走路に入るとともに、ゴミのない手入れの行き届いた明るい山道になり、ワラビやゼンマイ、ツワブキにタラの芽といった山菜取りに夢中になる人が多く、列は間延びをしながら進みました。山彩取りには縁がないと思われていた男性たちも取りはじめ、女性軍への貢物としてましたよ。途中では、ハナよりもハが先に出るので、出っ歯の人の代名詞にも使われる山桜が満開の花と葉を見せてました。



黄色の花が垂れ下がっているソケイの花の名を尋ね、「そーけい」とダジャレを飛ばしながら10時50分には、(なくに泣けない)792段の階段の参道を登り始めました。この日一番の難所でしたが、50段ごとに残りの段数が表示してあったので、励まされ頑張れました。

あと 200 段の表示のところでは、体についたシラミやノミを取るためにイノシシが作られているヌタ場を発見したりしました。あと 50 段のところでは、目も覚めるような鮮やかな花をつけたミツバツツジに、「休みもせずによろしく頑張って登ってきたね！」とねぎらわれる思いを抱いたのは僕だけでしょうか？

ここで、蜜柑や飴で疲れをいやし記念撮影を済ませたら晴れてきて、アップダウンの山道では汗が流れるほどの気温となってきました。この復路は、昼前ということもあり疲れも出てきたのか、かしましさが鳴りを潜めて、蝶が舞い花が咲き乱れ美しい鳥の鳴き声が溢れているの



を楽しみながらの縦走となりました。11 時 30 分に登山口に戻ると、佐賀労山の皆様の手づくりトマトスープの接待や大きな苺の接待やビールの接待があり、オレンジ山行にも取り入れようか！との話で盛り上がりました。昼食後、4 時まで行われたロープワークは、川原氏、鎗水氏、山下氏、松岡氏が丁寧に教えてくださり、T 氏と中里は数種類を初めて覚え俄然ヤル気を持ち始めましたよ！ありがとうございました！

(中里でした)

“疑似晴天”とは(インターネットより抜粋)

「疑似晴天」とは、悪天候と悪天候の狭間で、一時的に晴れ間が広がる特殊な現象。夏山でも疑似晴天への注意が必要。低体温症に加え、落雷のリスクが高まる。

白馬岳で昨年 5 月「疑似晴天」により登山者 6 人が遭難、全員が低体温症で死亡した。

彼らの登山計画では、初日は登山口の山小屋に一泊、翌朝 5 時に出発、稜線をたどりながら白馬岳の山頂へ。その後、山頂近くの山小屋に 1 泊する 2 泊 3 日の計画であった。

6 人に何が起きたのか？手がかりとなる映像が地元ホテルの観測用カメラに残っていた。事故が起きた 5/4、刻々と変わる白馬岳の天候が記録されていた。

6 人が山小屋を出発した 5:00、雲で山は殆ど見えない。4 時間後の 9:00、山頂付近に青空が広がる。昼頃になると山は再び、黒い厚い雲に覆われていく。

白馬岳の山頂付近で山スキーを楽しんでいたスキーヤーは天候の急変を間近で見ていた。

9:20 抜けるような青空が広がっていた。11:00 過ぎ強風が吹き始め、30 分後には激しい雨が降り出し、更に雪に変わった。猛烈な吹雪で 5m 先も見えなかった。

吹雪の中、スキーヤーは急いで下山したが、6 人は山頂近くの山小屋を目指し、途中で力尽きたとみられる。



気象レーダーでは、事故前日の3日、各地で大雨をもたらした低気圧が長野県を通過。そして、当日4日、白馬岳周辺では晴れ間が広がった。しかし、晴天は一時的なもので、午後、再び激しい悪天候に見まわれた。

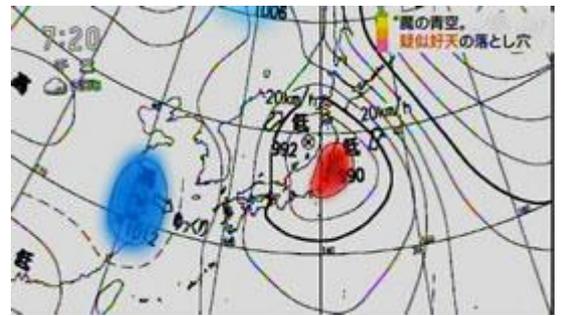
疑似晴天はなぜ起きたのか。

事故当日9:00の天気図では、東には前日まで各地に大雨をもたらした低気圧、西には高気圧という気圧配置。2つの気圧の境には強い寒気が入り込み、北アルプス一帯は再び天気が崩れるとみられた。

ところが、低気圧の西側は等圧線の間隔が広く、気圧の差が小さかったため、一時的に穏やかな天気になった。

しっかりと天気図を確認し、悪天候が続くということが分かれば、たとえ目の前で晴れ間が広がっていても、それは本格的な天候の回復ではなく、『疑似晴天』だとある程度予測できる。また、悪天候の兆候に気がついたら、無理をせず、近くの山小屋に避難するか、急いで下山しよう。

(鎗水 記)



3/31(月)田布施川のさくら Walk





聖岳と鬼の鼻山との縦走路にはスミレや春リンドウが咲き蕨も沢山ありました



おれんじニュースNo290	
発行元	オレンジハイキングクラブ
発行責任者	福岡正廣
編集責任者及び 原稿送付先	山下ちず子
発行年月日	2014.4.23
財政担当	
郵便振替口座	
ホームページ	http://orangehikingclub.com/

新しく編集委員を設けておれんじニュースのスタートです。春ですね。ランドセルを背負った気持ちで編集にあたりました。幸い桜の便りも多く寄せられてお祝いされている気分です。皆さまの温かいご支援を期待します。編集委員一同。